

平成 25 年度版

自主防災組織活性化マニュアル

◆本編

●本マニュアルについて

項目	ページ
活動の進め方とマニュアルの活用方法	1

●自主防災活動を活性化させるために

活性化に向けた取り組み	活動項目	難易度	ページ
計画的に活動しましょう	●活動計画を作成する	—	2
地域や組織を見直しましょう	●まちあるきを行う	★	3
	●災害図上訓練D I G (ディグ) を行う	★★	4
活動の参加者をふやしましょう	●チラシを作成し活動を周知する	★	5
	●参加者に記念品を配布する	★	6
	●地域行事に合わせて活動する	★	7
	●体験型の防災学習を行う	★	8
	●住民団体・組織と連携する	★★	9
防災意識・知識を向上させましょう	●医療・福祉機関、企業などと連携する	★★★	10
	●防災に関する話し合いを行う	★	11
	●防災講座・講演会を開催する	★★	12
	●防災マップを作成する	★★	13
	●避難所運営ゲームHUG (ハグ) を行う	★★★	14
防災訓練を実施しましょう	●災害時の支援方法を考える	★★★	15
	●自主防災組織が主体となった防災訓練の実施	—	16
アンケート調査を実施しましょう	●アンケート調査を行う	★	18

◆活動のためのツール（資料集）：別冊

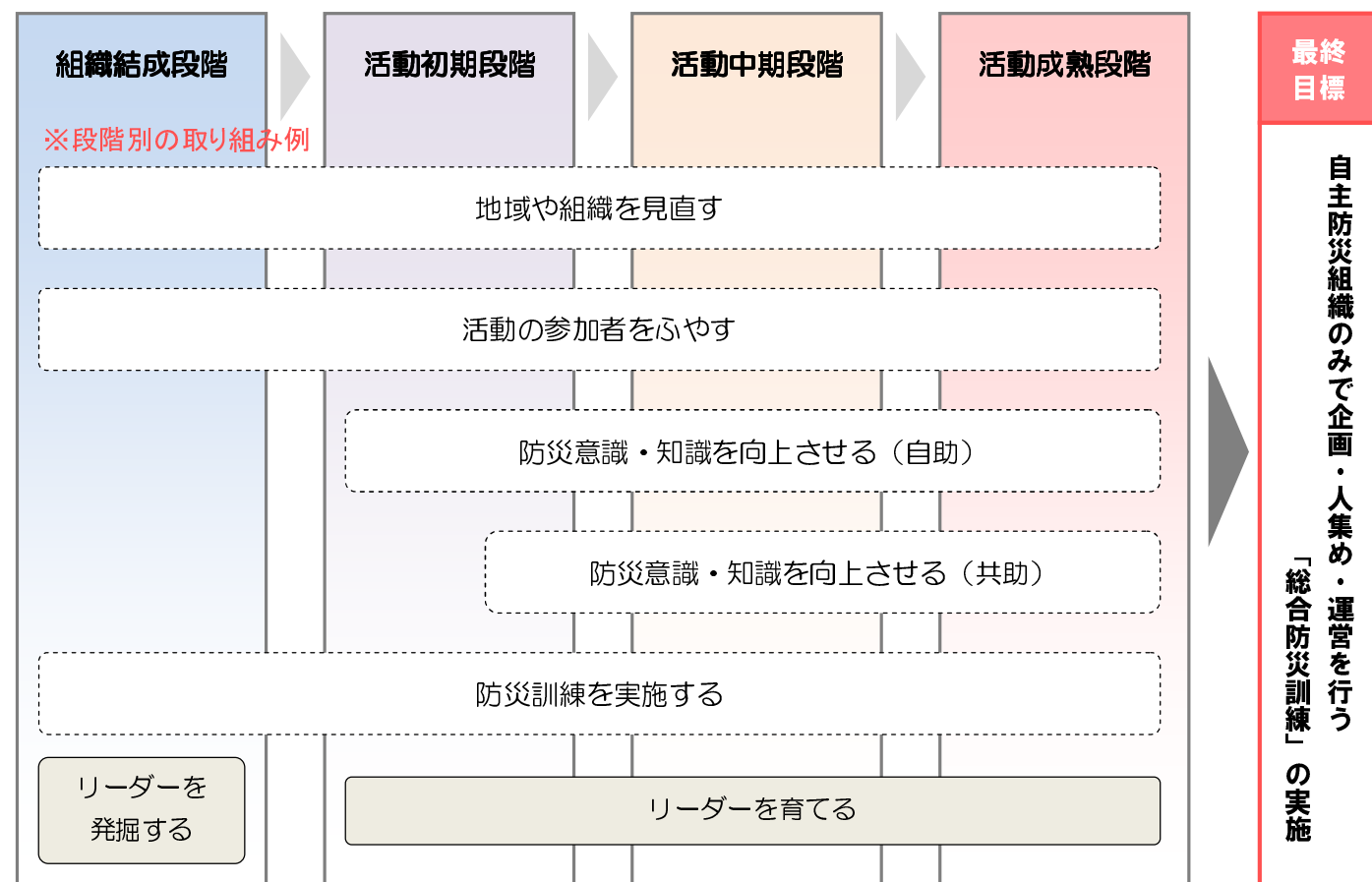
活動項目	ファイル名称	形式	ページ
活動状況を知る	●自主防災組織活動チェックリスト	PDF	資-1
活動計画を作成する	●三ヵ年活動計画表	Excel	資-2
	●年間活動計画表	Excel	資-3
まちあるきを行う	●まちあるきチェックリスト	Word	資-4
	●防災資機材チェックリスト	Word	資-10
チラシを作成し活動を周知する	●チラシ作成様式1	Word	資-16
	●チラシ作成様式2	Word	資-17
参加者に記念品を配布する	●非常時持ち出し品リスト	PDF	資-18
体験型の防災学習を行う	●クロスロードゲーム質問例	PDF	資-19
防災講座・講演会を開催する	●講演会の時間割	Word	資-23
	●準備品リスト	Word	資-24
	●参加者配布用プログラム	Word	資-25
防災マップを作成する	●防災マップ作成様式	Excel	資-26
防災訓練を行う	●災害時の活動体制チェックリスト	Word	資-28
	●防災訓練シナリオ	Excel	資-33
	●防災訓練準備品リスト	Excel	資-34
	●参加者配布用プログラム	Word	資-35
アンケート調査を行う	●アンケート調査票設問例集	Word	資-37

活動の進め方とマニュアルの活用方法



自主防災活動の進め方と最終目標

自主防災活動の進め方は、「組織結成段階」「活動初期段階」「活動中期段階」「活動成熟段階」の4段階に分けることができ、各段階に応じて取り組む内容や活動テーマが異なります。



マニュアルを活用し活動を活性化していきましょう！



自主防災組織の活動状況は？

自主防災活動の最終目標を達成するために、自分たちの組織の状況を把握することが大切です。

「自主防災組織活動チェックリスト」を使って、自分たちの組織が「できていること、できていないこと」を把握し、活動状況を確認してみましょう。

また、市街地や中山間地といった“地域特性”を知っておくことも大切です。

「自主防災組織活動チェックリスト」は“活動のためのツール”に掲載しています



マニュアルの活用方法

チェック結果からみえる活動状況を参考に、無理のない自主防災活動を実践していきましょう。

段階	取り組みの考え方	マニュアルを基にした活動
組織結成段階	<p>組織：地域を把握し、災害時の活動の中心であることを理解しましょう</p> <p>役員：他の地域で活動している人やアドバイザー制度を活用し、自主防災組織の目的や活動の進め方を学びましょう</p> <p>地域：自主防災組織の必要性を理解してもらいましょう</p>	<p>「★」の活動から初めてみましょう！</p>
活動初期段階	<p>組織：自主防災活動にたくさんの人が参加してもらえよう、活動を工夫してみましょう</p> <p>役員：自治体が主催する研修会などを活用し、防災リーダーを育成しましょう</p> <p>地域：自助を啓発する活動を中心に防災意識を向上させましょう</p>	<p>「★」の活動を中心に「★★」の活動にも挑戦してみましょう！</p>
活動中期段階	<p>組織：地域の防災リーダーを中心に活動を行いましょう</p> <p>役員：災害時に迅速に活動ができるよう、役割分担を決め、防災計画を作成しましょう</p> <p>地域：自助に関する知識を深め、各家庭の防災対策を充実させましょう</p>	<p>「★★」の活動を中心に「★★★」の活動にも挑戦してみましょう！</p>
活動成熟段階	<p>組織：地域全体で活動し、地域防災力を向上しましょう</p> <p>役員：災害時に地域住民の先駆者になれるよう、専門的な知識を身につけましょう</p> <p>地域：共助に関する知識を深め、近隣地域と連携できる活動を進めていきましょう</p>	<p>★マークに関係なく、全ての活動で自主防災組織が中心となり、内容を充実させましょう！</p>

活動への助言や指導は「広島県自主防災アドバイザー制度」を活用して下さい

計画的に活動しましょう

活動計画を作成する

作成に向けて	自主防災活動を継続していくためには、活動計画を立てることが大切です。「自主防災組織活動チェックリスト」による活動状況を参考に、“自主防災組織の将来的な目標”と“目標に向けて何から実施するべきか”を話し合い、まずは「三カ年活動計画」と「年間活動計画」を作成しましょう。
準備するもの	●三カ年活動計画表 ●年間活動計画表 ※“活動のためのツール”の「活動計画を作成する」を参考にしてください。 ●マジック
対象者	●自主防災組織の役員

STEP 1 自主防災組織の目標を考えます

地域の状況から、組織のあり方や将来の目標を決め、まずは「三カ年活動計画」を作成します。



STEP 2 1年間の活動テーマを考えます

「三カ年活動計画」の中から、1年間で実施するテーマを決定します。

STEP 3 活動項目と実施時期を検討します

活動テーマを基に、実施項目と実施時期を検討し、「年間活動計画」を作成します。



STEP 4 活動計画を基に活動を実施します

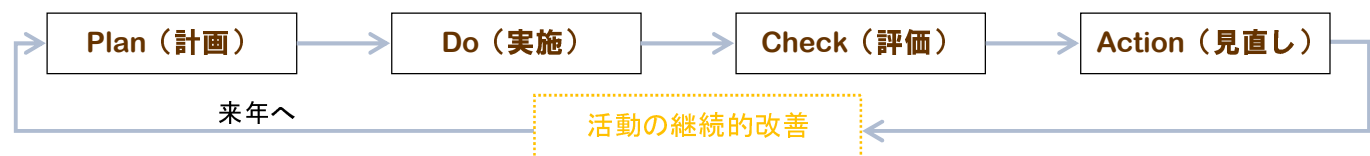
作成した「年間活動計画」を基に活動を実施し、計画に無理がないか見直しも行いましょう。

STEP 5 次年度活動計画を作成します

「年間活動計画」と実際の活動を振り返り、「三カ年活動計画」と併せて次年度活動計画を作成します。

ポイント：「PDCAサイクル」を活用しよう！

PDCAサイクルとは、事業活動などを円滑に進めるための手法の一つで、Plan(計画)→Do(実施)→Check(評価)→Action(見直し)の4段階を繰り返すことにより、活動を継続的に改善することができます。



三カ年活動計画の作成例

① 取り組みを記入します

② ①で記入した取り組みを“いつ頃から始めて”いくのか、その中で“今年の取り組みは何か”を整理し、実施期間を約三カ年で検討します。

活動項目	1年目(今年度)	2年目	3年目
① 講演会の実施	→		
② 防災訓練の実施	→		
● 非常時持ち出し品の普及		→	
● 防災情報伝達の手法検討			→
● 資機材の整備		→	

無理なく、長期で活動を考えることが大切です。例では“三カ年”としていますが、役員任期などに併せて計画することも有効です。

年間活動計画の作成例

① 活動・調整項目を記入します

② ①で記入した項目の実施時期を、1年間のうち“どの時期に行うか”大まかに記入していきます。

活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■ 年間活動計画の検討												
① 活動計画の作成	→											
1 講演会の実施												
① 日程・講師・講演内容の調整	→			→								
② 実施案内	→			→								
③ 講演会の実施			●			●						
④ アンケート調査			●			●						
2 防災訓練の実施												
① 防災訓練のシナリオ検討					→							
② 協力機関との調整					→							
③ 防災訓練の実施								●				
④ アンケート調査								●				
■ 活動の検証												
① 活動検証会議										●		
② 次年度活動内容の検討											→	
③ 次年度活動計画の作成												●

詳細な実施時期は活動項目ごとに検討しましょう。まずは、1年間の活動スケジュールを組み、活動量を把握することが大切です。お祭りや運動会など、地域行事の開催時期にも注意し、同時開催などの工夫も考えてみましょう。

まちあるきを行う

実施に向けて	地形状況や危険箇所など、自分たちの地域を知ることが、自主防災活動を考えていく第一歩となります。チェックリストを参考に、実際にまちを歩いて確認してみましょう。また、地域に詳しい人物に参加してもらうことも、地域をより深く知るために有効です。 ※災害図上訓練と併せて実施するとより効果的です。
必要なもの	●まちあるきチェックリスト（“活動のためのツール”に掲載しています） ●地域の地図 ●筆記具 ●クリップボード ●カメラ ●メジャー ※地図については、地域の自治体に相談してみましょう！
対象者	●自主防災組織の役員 ●地域住民
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

STEP 1 目的と歩く範囲、時間を決めます

“何を確認し、どこを歩くのか”、チェックリストと地図を参考に、まちあるきの目的と歩く範囲、時間を決めます。地図は地域の情報が詳しく書かれたものが理想です。



STEP 2 チェックリストを参考に現地を歩きます

チェックリストに該当する項目を、歩いて確認していきます。

- ① チェックリストは事前に確認しておきましょう
- ② チェックリストにない項目でも、気づきや発見はみんなで確認し、地図に書き込みましょう
- ③ 気になる箇所は写真に収め、撮影ポイントを地図に記入しましょう



STEP 3 まちあるき結果を地図に書き込み話し合いを行います

気になった箇所などを一枚の地図にまとめ、情報を整理します。また、整理した結果を基に話し合いを行い、情報を共有しましょう。

STEP 4 書き込んだ地図を地域に発信します



まちあるき結果を整理した地図は、戸別配布や公民館・集会所に掲示するなど、地域全体で情報を共有しましょう。

活動のポイント

- まちあるきでは車両への注意が必要です。参加者が多い場合は、グループを分けると動きやすくなります。
- 中山間地では“災害時に孤立しそうな集落や避難所までの距離”、市街地では“住宅密集地における被害や避難方法”なども、確認のポイントになります。
- まちあるきによるチェック結果をまとめた地図は、「防災マップ」として地域へ発信しましょう。地域全体で情報を共有することで、防災対策が立てやすくなります。
- 危険箇所だけでなく、地域の備蓄品などのチェックも行ってみましょう。“活動のためのツール”に、「防災資機材チェックリスト」を掲載しています。

実施地域	三次市酒屋地区 酒屋自主防災会		
実施日	平成25年10月6日		
参加者	自主防災会役員・地域住民・少年消防クラブ 合計30名 ⇒4班で実施		
準備品	【自主防災組織で準備したもの】		
	個人配布：●まちあるき用地図 ●チェックリスト ●クリップボード ●注意事項		
	班別配布：●とりまとめ用地図 ●カラーマジック ●メジャー ●カメラ		
	【参加者に持ってきてもらったもの】 ●飲料水 ●筆記具 ●タオル		

実施内容

時間	実施項目	状況写真
9:00~9:20 (20分)	まちあるきの目的と注意事項の説明 ・参加者の班分け ・まちあるきルートと集合時間の確認	
9:20~12:00 (2.5時間以内)	班別のまちあるき ・チェックリストを基にした危険箇所確認 ・気になる危険箇所をカメラで撮影	
12:00~13:00 (60分)	休憩 ・非常食の試食	
13:00~14:30 (90分)	まちあるき結果の整理 ・とりまとめ用地図へ結果を整理	
14:30~15:00 (30分)	結果発表・意見交換	

参加者の感想

- ・自分の地域を防災という視点から歩くことができ、非常に良かった。
- ・歩いてみて初めて分かる危険箇所があった。
- ・自主防災会へ積極的に参加する気持ちになった（会合で顔見知りの人が増えた）。



活動メモ

【活動で困ること】

- ①参加者が地図を見ることに慣れていない。
- ②グループに分かれると注意する視点がばらばらになる。
- ③まちあるきを実施しても「ただ歩くだけ」になってしまう。

【改善案】

- ①公民館やスーパー、コンビニなど、目印になる建物を事前に地図に記入しておきましょう。
- ②まちあるき前に、気になる箇所の見方や歩くポイントを参加者全員で統一しておきましょう。
- ③昔から住んでいる地域に詳しい人と一緒に歩きましょう。過去に地域で起きた災害が分かります。

地域や組織を見直しましょう

災害図上訓練 DIG (ディグ) を行う

実施に向けて	災害図上訓練とは、地域で起こりうる災害を想定し、危険が予測される箇所や事態を地図上に書きこんでいくものです。地図上で災害危険箇所を把握することで、避難・備え・連絡体制などを考えることができ、自主防災活動の進め方を考えるきっかけとなります。 ※まちあるきと併せて実施するとより効果的です。
必要なもの	●地域の地図 ●地域の災害危険箇所図 ●透明シート ●マーカー など
対象者	●自主防災組織の役員 ●地域住民
お問い合わせ	●詳しい手法：「チャレンジ防災 48」 http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/ ●指導者紹介：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790） ●想定災害：各種ハザードマップ（詳しくは地域の自治体にお問い合わせください）

STEP 1 地域で起こりうる災害を想定します

図上訓練で想定する災害がどのようなものか、説明を行います。想定する災害は、地域住民の関心の高いものが効果的です。



STEP 2 地域の状況を確認します

道路、川、公園、公共施設、避難所など、まちをつくっている基礎情報を書き込みます。また、スーパーやコンビニ、病院、ガソリンスタンドなど、民間施設も書き込んでおきましょう。

STEP 3 災害情報を書き込みます

決めておいた想定災害を参考に、災害による危険箇所を地図へ書き込みます。例) 土砂災害危険箇所 など



STEP 4 書き込んだ地図を基に話し合いを行います

Step 3までの内容を書き込んだ地図を基に、災害時に役立つ施設、避難場所、避難経路などについて話し合います。

STEP 5 参加者全員で情報を共有します

話し合った内容を発表し合い、みんなで情報を共有しましょう。

活動のポイント

- 道具を全て揃える必要はありません。地図とペンを用意し、まずは実施することが大切です。
- 中山間地・市街地のどちらにおいても、地域で起こりうる災害を想定することが大切です。
- 参加者全員が内容を理解することができるよう、丁寧に進めていきましょう。
- まとめの発表では、他グループの意見により、新たな気づきを発見できる場合があります。発表後にもう一度グループで話し合いを行いましょう。





災害図上訓練の活動事例

活動難易度 ★★☆☆

実施地域	三原市中之町下地区 中之町下町内会防災会
実施日	平成 25 年 7 月 25 日
参加者	自主防災会役員・地域住民・住民団体 計 40 名
準備品	個人配布：●地区の地図 ●透明シート ●丸シール ●付箋紙 ●セロテープ 班別配布：●プログラム ●筆記具

実施内容

時間	実施項目	状況写真
19:10~19:25 (15分)	想定災害の基礎知識講座	
19:25~19:30 (5分)	災害図上訓練の手順説明	
19:30~20:25 (55分)	災害図上訓練の実施 ・自宅・公共施設など地域情報の確認 ・避難所・避難経路の確認 ・災害危険箇所の確認 ・避難所・避難経路の安全性確認 ・地域で気になる箇所、過去に起きた災害箇所の確認	
20:25~20:45 (20分)	とりまとめ・発表 ・図上訓練で挙げられた情報の整理 ・各班の結果を発表し、情報を共有する	

参加者の感想

- 地域でどこが危ないのかを把握することができた。
- 通学路上の危険箇所を確認することができた。
- 作成した地図を基に、安全な避難ルートを考えていきたい。



活動メモ

[活動で困ること]

- ① 実施時間が限られていたため、十分な話し合いができなかった。
- ② DIG の結果をどのように活用してよいか分からない。

[改善案]

- ① 全ての Step を一度に実施する必要はありません。活動内容や時間に合わせて、一つずつ実施していきましょう。
- ② 出来上がった地図を基に、避難所や避難経路の見直しを行ってみましょう。また、話し合いで挙げられた意見を防災マップに反映し、地域へ発信することも効果的です。

チラシを作成し活動を周知する

作成に向けて	企画した活動を地域住民に広く周知するため“目につきやすく、分かりやすい”チラシを作成し配布しましょう。配布方法を工夫することで、より広範囲で活動が周知され、幅広い世代の参加促進につながります。
必要なもの	●案内チラシ（“活動のためのツール”の「チラシを作成する」を参考にしてください）
対象者	●地域住民
配布方法	●回覧板 ●ポスティング ●公共施設（公民館など）での配布 ●掲示板への掲示
配布時期	活動実施日の2～3週間前まで

STEP 1 チラシの作成目的及び配布対象者を決めます

どのような活動のために作成するのか、どのような人を対象に配布するのかを考え、チラシの見出しを決定します。

STEP 2 掲載する情報を整理します

チラシにどのような情報を掲載するか整理します。

■チラシの掲載項目

- ・タイトル（見出し）
- ・主催・共催（住民団体や行政機関など）
- ・活動目的
- ・開催日時、会場、天候による中止案内
- ・活動内容や実施手順の簡潔な紹介
- ・参加者が持ってくるもの
- ・参加費（有料の場合は金額、無料の場合も明記）
- ・活動に関するお問い合わせ先 など

整理した掲載項目は分かりやすく、なるべく読みやすい大きさで表記します。

STEP 3 チラシを配布します

作成したチラシを印刷し配布します。チラシの配布には地域のツールを有効活用し、より多くの人へ周知するようにしましょう。

活動のポイント

- ・チラシの作成には確定した情報が必要です。地域でしっかりと話し合い、掲載する情報を決めましょう。
- ・チラシの紙面は、イラスト・写真などを交え親しみやすくすると、子どもの目に止まり、家族単位での参加促進にもつながります。
- ・作成したチラシは、地域住民が参加計画を立てやすいよう、なるべく早めに配布しましょう。早めに配布することで、人から人へと情報が広がりやすくなります。



チラシの作成例

パターン①：防災地図作成勉強会の開催案内

活動見出しと活動目的

活動による効果

日時・会場
実施内容

主催・共催

お問い合わせ先

実施地区	三次市酒屋地区
配布数	300枚
配布方法	自治会長を通じた戸別配布

パターン②：防災訓練の実施案内

実施地区	広島市佐伯区楽々園学区
配布数	400枚
配布方法	町内会長を通じた戸別配布 小学校への掲示



活動メモ

【活動で困ること】 町内会・自治会に所属していない住民への案内ができない。

【改善案】

- ・チラシを拡大印刷して、地域の掲示板に貼ってみましょう。
- ・学校に協力を依頼し、生徒を通して配布してみましょう。家族ぐるみの参加も望めます。
- ・「公民館だより」など、地域内の情報誌へ活動案内記事を掲載してみましょう。
- ・特に中山間地では、寄合などの機会を利用した声かけによる手渡しも効果的です。

参加者に記念品を配布する

実施に向けて	活動参加者に記念品を配布し、参加への“楽しみ”を提供することで、参加意欲の向上や、活動への継続参加を促進します。		
必要なもの	●記念品	●参加者数の予想	●予算の確認
対象者	●地域住民		

STEP 1 配布対象者と配布条件（目的）、配布する記念品を決めます

配布対象者と配布数、配布条件を決めておきます。記念品を購入する場合は、予算も確認しておきましょう。

活動の主旨に沿った記念品、防災意識の啓発や災害時に役立つものなど、配布する目的に合わせて記念品を決めましょう。

STEP 2 活動実施時に記念品を配布します

あらかじめ決めておいた条件に基づき、対象者に記念品を配布します。

記念品の例

[防災グッズ]



防災ホイッスル

[防災パンフレット]



啓発パンフレット

[非常食]



アルファ化米



ポケットティッシュ



非常時持ち出し品リスト



乾パン

※購入数などで品物の単価が変動する場合があります。配布数をきちんと決めておきましょう。

※防災パンフレットなどは、地域の自治体や広島県から提供してもらえる場合があります。まずは相談してみましょう！

記念品の配布例①：防災ホイッスル

実施地域	三原市本町地区 本町連合町内会自主防災委員会
実施日	平成24年11月25日
準備数	300個
配布品	防災ホイッスル
実施概要	防災訓練時のアンケート回収率の向上を目指し、記入者に対して配布した。



記念品の配布例②：非常食の試食

実施地域	三次市酒屋地区 酒屋自主防災会
実施日	平成25年10月6日
準備数	40食（スタッフを含む参加者全員分）
配布品	●アルファ化米 ●缶パン（サバイバルパン）
実施概要	まちあるき参加者への昼食として、非常食を提供し避難所での食事を体験した。



活動メモ

[活動で困ること]

- ① 記念品に何を選べばよいか分からない。
- ② 記念品を購入する予算がない。
- ③ 当日、記念品の数が足りなくなってしまった。

[改善案]

- ① 実施する活動内容に関連したものがよいですが、子どもと大人では記念品の種類も変化します。「誰」に配布するのかを意識して選んでみましょう。
- ② まずは地域の自治体に相談してみましょう。また、地元企業にも協力をお願いしてみましょう。
- ③ 参加者数が予測できない場合は、あらかじめチラシなどで「記念品は数に限りがあること」をお知らせしておきましょう。

地域行事に合わせて活動する

実施に向けて	地域行事は、世代・団体を問わず様々な人が参加するとてもよい機会であり、“防災”を意識せず活動に参加してもらえることができます。また、地域の様々な団体とのつながりができるだけでなく、行事を率先して動かす人物、地域で使用している備品の所在など、地域の防災資源を知ることができます。
必要なもの	●地域行事の予定表 ●行事を実行する団体との調整
対象者	●地域住民

STEP 1 地域の行事を洗い出します

地域や町内会の“年間予定表”などから、どのような行事が、いつ開催されるのかを把握しましょう。



STEP 2 実施に向けた調整を行います

準備期間、参加者などを踏まえ“防災”の要素を取り入れることができそうな行事を決定します。決定後は、行事を主催する団体と、実施内容や活動時間などについて調整を行います。



STEP 3 活動を実施します

検討した内容を実施します。実施時は活動の記録を取り、実施後の広報に役立てましょう。記録を残しておくことで、活動に携わった役員が交代しても活動を継続することができます。

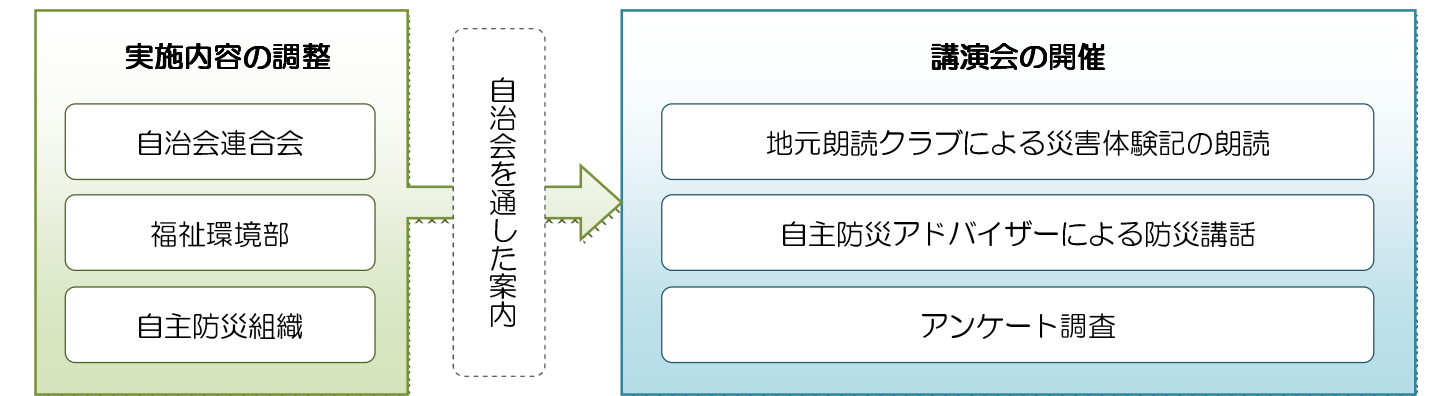
活動のポイント

- 準備や調整には思いのほか時間がかかります。準備期間や調整期間を考慮して、地域行事を選びましょう。
- 地域行事への参加率が高い中山間地では、より効果的な活動となります。
- メインとなる行事の主催者に、活動の主旨を理解してもらおうことができるよう、事前によく話し合うことが大切です。
- 主催者に「一緒に実施してよかった！」と喜んでもらい、継続した活動を目指しましょう。
- 活動内容は欲張ることなく、「日常生活の中で防災を意識できるもの」「短時間で楽しめるもの」などを検討しましょう。
- 活動による防災意識の啓発も大切ですが、まずは、地域のコミュニケーションを活発にしていきましょう。

活動事例：定期講演会の合同開催

実施地域	安芸太田町殿賀地区 殿賀振興会防災会議
実施日	平成25年12月8日
参加者	地域住民 32名
概要	「地域のつながり」をテーマとした定例講演会に、防災を取り入れて合同で開催した。

実施内容



参加者の感想

- このような講演会を定期的で開催し、防災について勉強していきたい。
- 災害未経験の私にとって、地域で起きた災害を改めて知る良いきっかけとなった。
- 大変勉強になったため、次回はもっとたくさんの人に声をかけたい。

[活動で困ること] どのような行事に合わせて何をすればよいか分からない。

[地域行事との連携例]

地域行事	活動項目	目的
夏祭り・運動会	テント設営	災害対策本部設置を想定した訓練
運動会	負傷者搬送	簡易担架のつくりかたを広める
敬老会	会場を避難場所にする	高齢者の避難訓練を想定する
地域清掃	歩一歩たいそう	日常生活に潜む危険への備え方を広める
ラジオ体操	ぼうさいダック	子どもたちに災害時の身の守り方を広める

体験型の防災学習を行う

実施に向けて	体験型の防災学習とは、参加者自身が体を使って防災を学ぶ学習手法です。ゲームや体操といった手法により、身構えることなく防災意識を向上できるほか、年代・性別を問わず実施することができます。
必要なもの	●体験型学習用教材（各専門機関にお問い合わせください） ●各学習にて必要な準備品
対象者	●地域住民（特に子どもや高齢者）
お問い合わせ	●指導者紹介：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

●主な体験型学習 ※各学習方法の詳細はインターネットにてご検索ください。

クロスロードゲーム

災害時の対応を自らの問題として考え、様々な意見や価値観を参加者同士で共有することを目的とした、ゲーム形式による防災教育手法です。ゲーム形式のため参加しやすく、意見交換のしやすい体験学習です。

対象者：年代問わず

詳しい手法：内閣府ホームページ

URL： <http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/torikumi/kth19005.html>



歩一歩たいそう

災害をはじめ、犯罪や事故など、日常生活のあらゆる危機への備えをまとめた「歌+健康体操」です。“自助意識の高揚”と“健康への気配り”を目的としており、歌と体操により、災害時の備えを学ぶ体験学習です。

対象者：高齢者、小学生、幼児

詳しい手法：呉市社会福祉協議会

電話：0823-25-3509 FAX：0823-25-7453

URL： <http://kureshakyu.net/>



簡単防災工作教室

どの家庭にもある、新聞紙、キッチンペーパー、ビニール袋を使い、スリッパ、マスク、カッパなど避難に役立つグッズを作ります。作りながら“備えることの大切さ”を学ぶことができ、工作という手法から子どもにも人気のある体験学習です。

対象者：小学生、幼児

詳しい手法：広島県自主防災アドバイザー制度

電話：082-513-2790（消防保安課）



活動のポイント

- 地域で活動を実施していくことができるよう、まずは自主防災組織の役員が活動手法を覚えるようにしましょう。
- 中山間地・市街地のどちらにおいても、地域の特徴に合わせて実施しましょう。
- 体験型防災学習を初めて実施するときは、専門の指導者が必要になります。また、活動によっては教材を購入する必要もあります。
- 活動実施の前には「詳しい手法」として紹介している機関や、地域の自治体に相談してください。



活動事例：酒屋地区防災訓練（簡単防災工作教室）

実施地域	三次市酒屋地区 酒屋自主防災会
実施日	平成26年2月23日
参加者	地区住民 342名
実施概要	防災訓練で実施した“体験訓練”の一つとして、「簡単防災工作教室」を実施した。



活動メモ

【活動で困ること】

- ①クロスロードゲームで、同じような意見が多かった。
- ②声を出しながら体を動かすことが恥ずかしい。

【改善案】

- ①参加者の世代、性別、町内会、職業などがばらばらになるようグループ分けを行うと、様々な意見を出し合うことができます。
- ②思い切ってやることで、知識が身に付きます。大人だけでの実施が恥ずかしい場合は、子どもも交えて実施してみましょう。子どもたちに教えながら実施することで、自然と楽しめるようになります。

住民団体・組織と連携する

連携に向けて	地域で活動している様々な団体や組織と連携することで、参加者が増えるだけでなく、幅広い年代層の参加へとつながります。また、日頃から協力体制を築くことで、災害時に連携した活動が可能となります。
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

STEP 1 目的に合わせ、団体・組織を洗い出します

地域内にどのような団体・組織が活動しているのかを把握し、実施したい活動に合わせ、団体や組織を決めます。

■連携に有効な団体例

- 婦人会
- PTA
- 学校
- 老人会
- 商店会
- 青年団
- 子ども会
-
- など



STEP 2 防災の大切さを理解してもらいます

いきなり活動連携を求めることは困難です。まずは連携していきたい団体・組織のリーダーや中心人物に、「防災の大切さ・必要性」を理解してもらいましょう。そのためには、簡単な勉強会の開催などが有効です。

STEP 3 日程を確認し実施に向けた調整を行います

団体・組織と活動内容や日程を調整し、活動実施に必要な事項について、調整を行います。

STEP 4 活動を実施し、恒例化します

活動を実施します。実施時は活動記録を取りましょう。連携した団体・組織と協力体制を築き、活動を恒例化していきましょう。

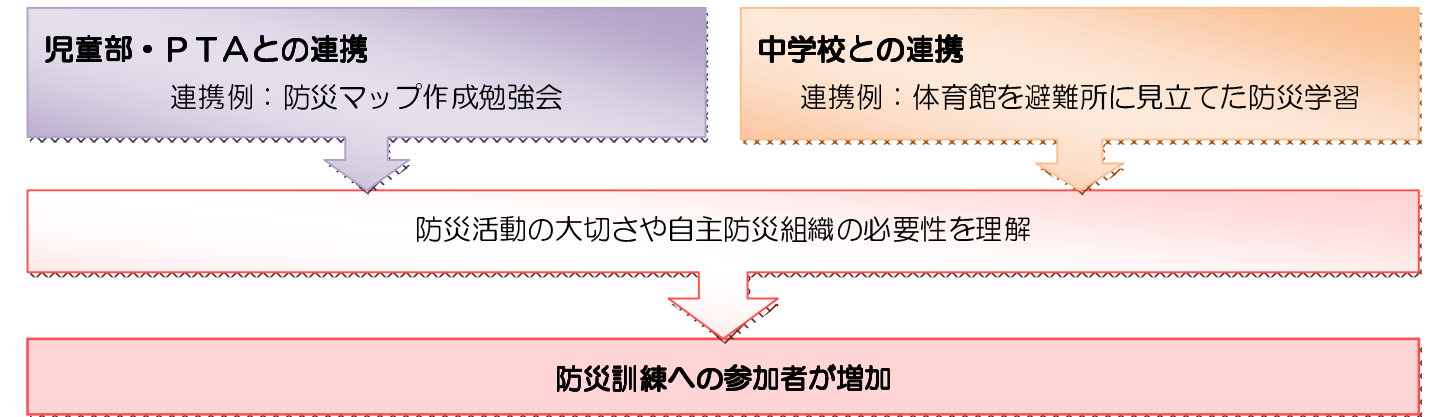
活動のポイント

- 準備や調整には思いのほか時間がかかります。準備期間や調整期間を考慮し、連携したい団体・組織とよく話し合いを行いましょう。
- 話し合いの時には、専門用語は使わず分かりやすい言葉で説明しましょう。
- 特に市街地では、「どのような防災知識をどの世代に広めたいか」をしっかりと検討し、連携する相手を決めていきましょう。
- お互いの負担にならないよう、役割分担を明確にしておきましょう。

活動事例：住民団体と連携した防災活動

実施地域	三原市中之町地区 中之町下町内会防災会
実施日	平成25年6月～平成26年2月
連携団体	●児童部 ●PTA（おやじの会） ●中学校

活動の流れ



児童部の感想

活動に参加してとてもよかった。災害が身近に起きると考えることもあまりなく、普段は気にも留めていなかったため、防災を考えるよい機会になった。また、児童部として今後、子どもたちに災害時の対応を話すための勉強にもなった。



活動メモ

【活動で困ること】 防災について理解が得られない団体・組織があった。

【改善案】

●連携したい団体・組織の特徴に合わせ、防災を日常に感じることでできるテーマを提案することで、活動への関心を引くことができます。連携には地道な話し合いを重ねることが大切です。

【テーマ例】

- ① 児童部と連携：子どもを持つ母親に向けた家庭内の防災対策
- ② 学校と連携：避難所としての校舎・体育館の利用方法
- ③ PTAと連携：通学路の安全性の検証
- ④ 老人会と連携：高齢者に向けた避難情報の周知や通報訓練 など

医療・福祉機関、企業などと連携する

連携に向けて	地域防災力を向上し、災害時の活動を円滑にするためにも“地域の結びつき”を強化することは大切です。近隣の専門機関や企業と連携することで、専門知識の学習や保有する物資・機材の提供などが期待できます。
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

STEP 1 連携の目的を決めます

自主防災組織だけでは難しい活動など、「どのような事に連携が必要か」十分に話し合い、目的を決めます。

STEP 2 連携相手と連携方法を検討します

話し合いの結果を基に、「誰とどのように連携したいか」、連携相手と方法を検討します。

STEP 3 連携に向けた話し合いを重ねます

連携目的を相手にきちんと理解してもらい、お互いの負担にならないよう、連携していくための条件や役割分担を話し合います。

STEP 4 連携体制についてまとめます

話し合いにより連携体制が決定したら、内容をまとめ、お互いで保存します。文書として保存しておくことで、担当者が代わっても、活動を円滑に進めることができます。

STEP 5 連携した活動を実施します

災害時にどのような活動ができるか、連携体制を確認するため、防災訓練などを実施します。防災訓練の継続実施により、連携体制がより円滑なものとなります。

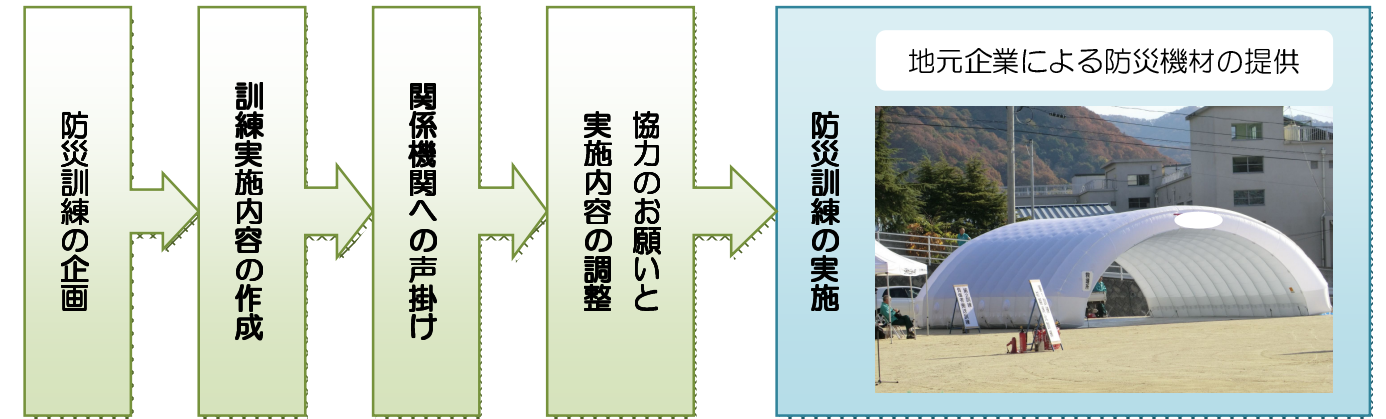


活動のポイント

- 連携したい相手に自主防災活動の重要性を理解してもらいましょう。そのためには、根気よく話し合いを進めることが大切です。
- 連携できることには限りがあります。無理を言わずお互いの負担にならないようにしましょう。
- 活動が継続できるようになったら、連携内容をまとめた文書を「協定書」として保存しておきましょう。

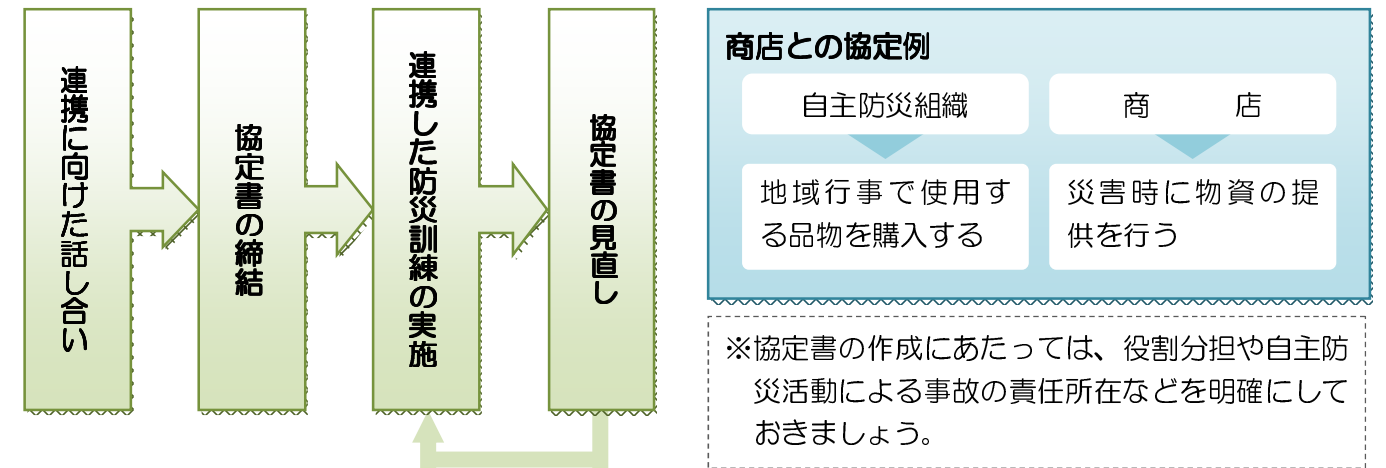
企業による防災訓練への協力例

● 協力までの流れ



企業との協定例

● 協定までの流れ



活動メモ

[活動で困ること]

- ① どこと連携したらよいか分からない。
- ② 連携がスムーズにできない。
- ③ 必ず協定を結ばないといけないの？

[改善案]

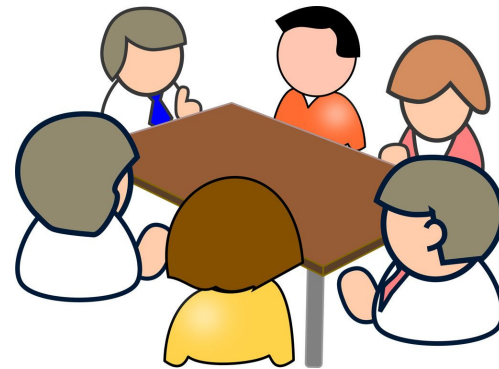
- ① まずは地域にどのような機関・企業があり、災害時に「どんな強み」となり得るのか確認しましょう。
- ② 防災訓練などを一緒に行うことで、連携相手との役割分担が明確になり、地域に協力できることが理解しやすくなります。
- ③ なるべく協定を結ぶことがよいですが、連携したい機関・企業とコミュニケーションを図り顔見知りとなるだけでも、災害時の活動がスムーズとなります。

防災に関する話し合いを行う

実施に向けて	気の合う役員同士や地域のちょっとした集まりの中で“防災や災害について思うこと”など、簡単な意見交換を行うことで、より地域住民の求めるテーマに沿った活動へとつながります。
必要なもの	●テーマ（話題） ●メモ ●テーマに応じた資料・映像（地域の自治体や消防署などにお問い合わせください）
対象者	●自主防災組織の役員 ●地域住民（特に防災に関心の高い人など）
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

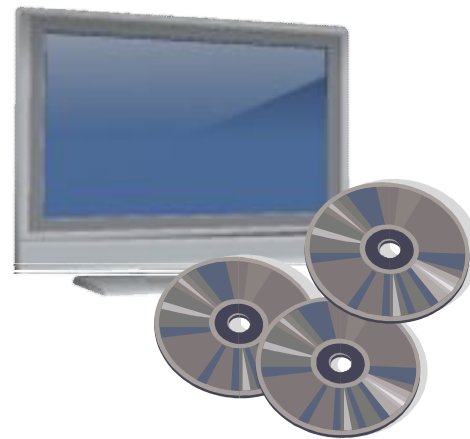
STEP 1 話し合いのテーマを決めます

テーマや日時などを決め、参加者の声掛けを行います。町内会の集まりなどに合わせて行うことも有効です。防災は「地域づくり」の一つです。様々なテーマを基に話し合うことで、地域防災力の向上にもつながります。



STEP 2 必要に応じて資料などを用意します

テーマに沿った資料や映像などが必要な場合は、地域の自治体や消防署などに相談してみましょう。災害についてまとめた冊子や、災害発生時の映像などを借用することができます。話し合いにアドバイスが必要な場合は、広島県自主防災アドバイザー制度を活用してみましょう。



STEP 3 話し合いを実施します

決められたテーマに沿い、話し合いを行います。話し合いで挙げられた意見を記録することで、活動の進め方の参考となります。

活動のポイント

- まずは自主防災組織の役員や、防災に関心の高い人同士で集まり、自由に意見交換を行ってみましょう。
- お互いが思っていることを知ることが大切です。人の意見を否定せず、様々な意見を取り入れ活動に反映していきましょう。

活動事例：町内会主催の勉強会

実施地域	廿日市市廿日市地区 廿日市地区自主防災協議会
実施日	平成24年11月11日
参加者	地域住民（1町内会） 64名
実施概要	防災訓練後に、訓練で使用した想定災害や各班での避難体制などについて、町内会独自に勉強会を実施した。



【活動で困ること】 どのようなテーマで話し合いを行えばよいか分からない。

【改善案】

- 地域で困っていることなど、身近な話題を基に話し合いを始めてみましょう。
- 自治体で公表しているハザードマップ、パンフレット、映像資料などを見るだけでも十分なテーマとなります。必要な資料があれば、地域の自治体に相談してみましょう。

防災講座・講演会を開催する

開催に向けて	地域に合ったテーマを決め、学識経験者や防災リーダーなどに講師を依頼し、講演会を実施しましょう。住民に分かりやすい講話を行うことで、防災意識が向上します。
必要なもの	●講演会の時間割 ●開催案内チラシ ●参加者への配布資料 ●実施に必要な資機材 ●会場 ※詳しくは“活動のためのツール”の「防災講座・講演会を開催する」を参考にしてください
対象者	●地域住民
お問い合わせ	●講師：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790） 出前講座（地域の自治体にお問い合わせください）

STEP 1 テーマを決め、講師を依頼します

地域で起こりうる災害、アンケート結果などから、講座や講演会のテーマとおおまかな日程を決め、講師を依頼します。

STEP 2 時間割を作成します

日程と会場を確定し、開催時間、当日の時間配分、役割分担を決め、時間割を作成します。

■決めておく項目

- ・日程、会場、開催時間
- ・講師の講話時間
- ・司会・進行・挨拶などの役割分担 など



STEP 3 実施に向けて準備を行います

必要な資機材の調達、開催案内チラシの作成・配布など、実施に向けて準備を行います。

STEP 4 講座・講演会を実施します

作成した時間割に沿って、講演会を実施します。



実施のポイント

- ・講演会のテーマは、“誰にどのようなことを聞いてもらいたいのか”という視点から検討することも防災意識啓発には有効です。
- ・講演会は定期的開催し、テーマを変えながら広く防災意識を啓発していきましょう。
- ・講座・講演会時には、アンケート調査を併せて行うことで、今後の自主防災活動に役立つ意見が収集できます。

防災講演会の実施例

実施地域	広島市佐伯区楽々園学区 楽々園学区自主防災会連絡協議会
実施日	平成25年6月26日
参加者	地域住民 100名
準備品	参加者配布：●プログラム ●アンケート調査票 ●自主防災活動チラシ 進行用：●スクリーン ●プロジェクター ●パソコン ●マイク
実施項目	●講話 テーマ：地域と防災（自助・共助とは、これから必要な防災対策） ●アンケート調査 内容：講演会の評価、防災意識と自主防災活動について

実施内容

時間	項目	活動写真
19:00~19:05 (5分)	・開会挨拶 ・講師紹介	
19:05~20:05 (60分)	・講話（テーマ：地域と防災） ・質疑応答	
20:05~20:20 (15分)	・アンケート調査の説明 ・調査票への記入と回収	
20:20	・自主防災活動のお知らせ ・閉会挨拶	

参加者の感想

- ・講演を聞いて、自主防災活動の必要性を理解することができた。
- ・今後は自主防災組織が実施する活動に積極的に参加していきたい。
- ・個人でもできる防災対策など、様々なことを学んでいきたい。



活動メモ

【活動で困ること】

- ① 講演会のテーマが決まらない。
- ② 参加者が集まらない。

【改善案】

- ① 中山間地では“過疎化や山の荒廃”、市街地では“つながりの希薄化や防犯”など、身近な問題をテーマとすることも、防災意識の向上につながります。
また「災害体験談」を聞くことも非常に有効です。
- ② チラシを使った事前周知が効果的です。「チラシを作成し活動を周知する」の項目を参考にしてください。
※実施前に、地域の自治体や広島県に相談してみましょう。

防災マップを作成する

作成に向けて	地域で気になる箇所や避難にしたい場所など、地域特有の情報を地図にまとめ、独自の防災マップを作りましょう。地域全体で情報を共有し、定期的な見直しを行うことで防災意識だけでなく地域防災力の向上にもつながります。
必要なもの	●地域の地図 ●マジック ●パソコン ●プリンター ●防災マップ作成様式（“活動のためのツール”に掲載しています）
対象者	●自主防災組織の役員 ●地域住民（防災に関心の高い人など）
お問い合わせ	●地域の地図：自治体にお問い合わせください ※ハザードマップの活用も有効です。 ●作成の指導：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

STEP 1 地図上やまちあるきにて地域の情報を整理する

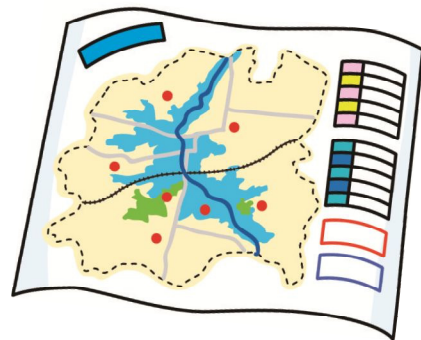
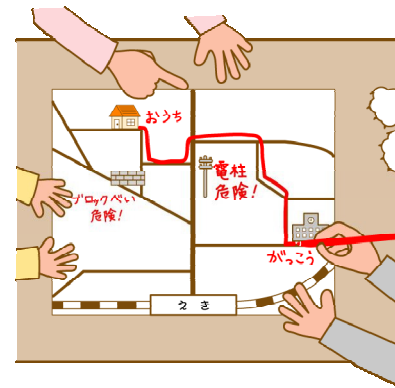
「まちあるきを行う」「災害図上訓練を行う」の項目を参考にしてください。

STEP 2 掲載項目を整理します

防災マップに掲載する危険箇所、施設などの情報を整理します。自治体が公表しているハザードマップも参考にしてみましょう。

■主な掲載項目

- 自治体で公表している災害危険箇所
- まちあるきなどで見つけた地域の危険箇所
- 避難所や避難経路
- 災害時に役立つ施設（民間施設を含む） など



STEP 3 データを作成し印刷・配布します

“活動のためのツール”に掲載している様式を参考に、まとめた内容をデータとして作成します。

作成のポイント

- 最初から完璧に作る必要はありません。みんなで知恵を出し合い、手書きのものから始めましょう。作成したマップを定期的に見直し、完成度を高めていきましょう。
- 防災マップの紙面には、災害への備えや防災情報の入手方法などを記載し、「避難マニュアル」としての活用も目指してみましょう。
- パソコンで作成する場合は、文字の大きさを変えたり、イラストを交えた説明を入れると見やすくなります。防災マップの大きさは、家庭の壁や冷蔵庫に貼ることができるよう、A3サイズやB3サイズが望ましいです。

防災マップの作成例

実施地域	広島市佐伯区楽々園学区 楽々園学区自主防災会連絡協議会
実施日	平成25年7月～平成26年3月
配布対象	楽々園学区内 全戸

作成の流れ

①防災マップ作成説明会
マップ作成の目的・作り方や活用事例を紹介

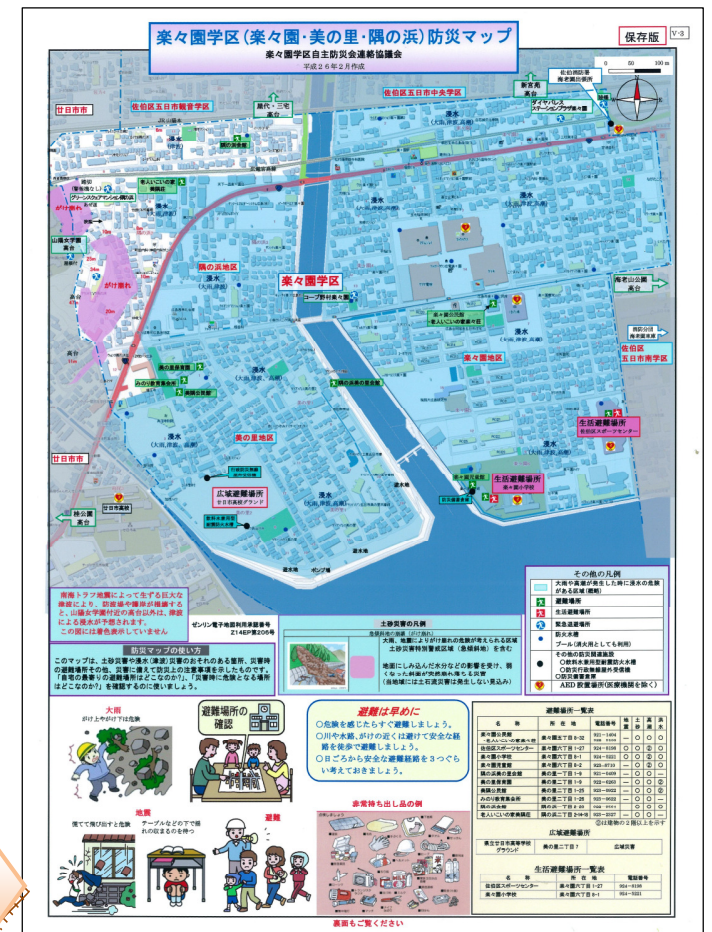
②まちあるきによる地域の確認
地図上では分からない危険箇所などを確認

③基本となるマップの作成
まちあるき結果をまとめたマップを作成

④掲載情報の整理
基本となるマップを基に掲載情報を整理

⑤地図の校正・再確認
地図の見やすさや表示する情報を確認

地図の完成（印刷・配布）



制作者の感想

- 地域全体で防災・災害情報を共有するための資料ができてよかった。
- 今後、作成した防災マップを活用し、避難経路の見直しや避難訓練などを実施していきたい。

活動メモ

【活動で困ること】

- ①作成に使える地図がない。
- ②掲載情報がまとまらない。
- ③印刷費が無い。

【改善案】

- ①自治体が保有している地図を提供してもらえる場合があります。相談してみましょう。
- ②掲載情報は、様々な意見を取り入れながら話し合いを重ねることが大切です。目的に合うよう、必要な情報を整理しましょう。
- ③様々な助成金制度が活用できます。活動内容や地域により活用できる制度が異なるため、自治体に相談してみましょう。

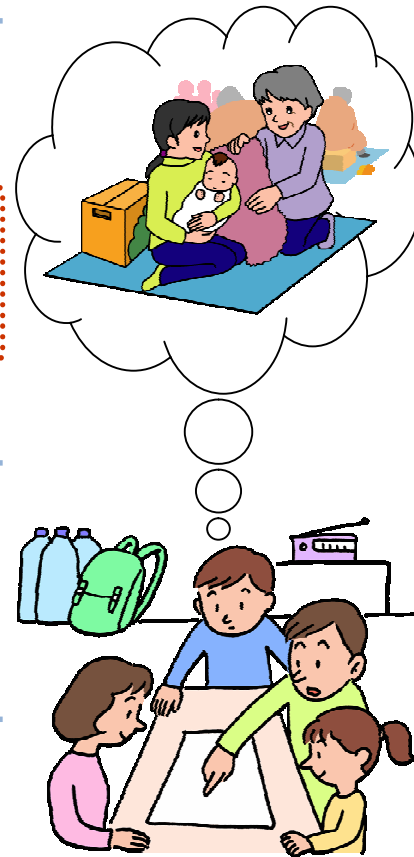
避難所運営ゲームHUG（ハグ）を行う

実施に向けて	大規模災害による避難所の開設を想定し、避難所運営を皆で考えるための防災学習手法です。避難者の年齢、性別、国籍や、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所となる体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験します。
必要なもの	●避難者・イベントカード ●仮想避難所平面図 ●付箋紙 ●マジック など
対象者	●自主防災組織の役員 ●地域住民
お問い合わせ	●活動の相談：広島県消防保安課（電話：082-513-2790）

STEP 1 ゲーム条件を決めます

地域で想定する災害や、避難所開設時の状況、その日の天気など、ゲームを進めていく上での条件を事前に決めます。また、ゲーム時間も決めておきましょう。

参加者の意見を聞きながらゲームを円滑に進行していくためには、1グループ6～8名が適切です。ゲーム開始時はテーブルの中央に避難所の平面図を開き、グループの意見をまとめる進行係を決めましょう。



STEP 2 ゲームを実施します

全体の進行係はカードを次々に読み上げ、参加者は避難者カードを避難所平面図に配置していきます。カードを読む速度はなるべく早く、実際の避難所の混乱を想像しながら進めていきましょう。

STEP 3 意見交換を行います

ゲームが終了したら、避難所平面図上のカードの配置を再確認し、「どのような理由でこのような配置になったのか」意見をまとめます。まとめた意見を基に、グループ発表を行うなど意見交換を行いましょう。

活動のポイント

- カードを読みあげるときは、プレイヤーが前のカードを配置し終わる前に次のカードを読みあげるのがコツです。実際の災害時では、避難者は待ってくれません。
- 明確な正解はありません。実際に災害が起きた時によりよい対処ができるよう、様々な意見を出し合ひましょう。
- カードの内容に、中山間地では“孤立による問題”、市街地では“帰宅困難者の避難受け入れ”など、地域で想定される事象を取り入れてみましょう。より実践的な訓練となります。

避難所運営ゲーム実施例

実施地域	三原市中之町下地区 中之町下町内会防災会
実施日	平成25年11月24日
参加者	自主防災組織役員・住民団体代表・地元中学生・地域住民 計98名
準備品	班別配布：●避難者・イベントカード ●仮想避難所平面図 ●マジック 個人配布：●付箋紙 ●ペン 進行用：●マイク ●パソコン ●プロジェクター

実施内容

時間	項目	活動写真
8:30	中学校の体育館へ集合・参加者確認	
8:40~9:00 (20分)	開会挨拶	
9:00~11:00 (120分)	避難所運営ゲームの手順説明 避難所運営ゲームの実施	
11:00~11:20 (20分)	休憩（他班のゲーム結果を確認）	
11:20~11:50 (30分)	グループ発表・意見交換	
11:50~12:00 (10分)	閉会挨拶	

参加者の感想

- 避難所運営の大変さを疑似体験することができた。
- 避難所運営のための役割分担を日頃から明確にしておきたい。
- 本日は机上でのシミュレーションであったため、今度は実際に動いて訓練したい。

避難所運営ゲームを実施すると、どんなことが分かるの？

●避難所運営ゲームはあくまでも「ゲーム」です。楽しみながら意見を出し合うことで、実際の運営に必要な課題を発見することができます。

[避難所運営の課題例]

- ①避難所の収容人数
- ②配慮を必要とする人の配置
- ③避難所スペースの使い方
- ④運営に必要な資機材
- ⑤介護・医療など必要な人材の確保
- など



活動メモ

災害時の支援方法を考える

検討に向けて	災害時には、多種多様な人が支援を必要としています。どのような人がどのような支援を必要とし、自主防災組織や地域としてどのように支援していくことがよいか、その方法を考えてみましょう。
お問い合わせ	要支援者に関する勉強会：あいサポート運動 (広島県障害者支援課 電話：082-513-3157) 支援方法のアドバイス：広島県自主防災アドバイザー制度 (広島県消防保安課 電話：082-513-2790)

STEP 1 支援が必要な人を想定する

自分たちの地域に“どのような人が住み、どの年代が多いか”など、地域住民の特徴を把握し、災害が起きたら“どのような人に支援が必要となるか”地域で話し合います。

■支援が必要な人とは・・・？

- 高齢者 ●乳幼児 ●妊産婦 ●外国人 ●旅行者
- 障害者（聴覚・視覚・知能・精神・肢体障害）

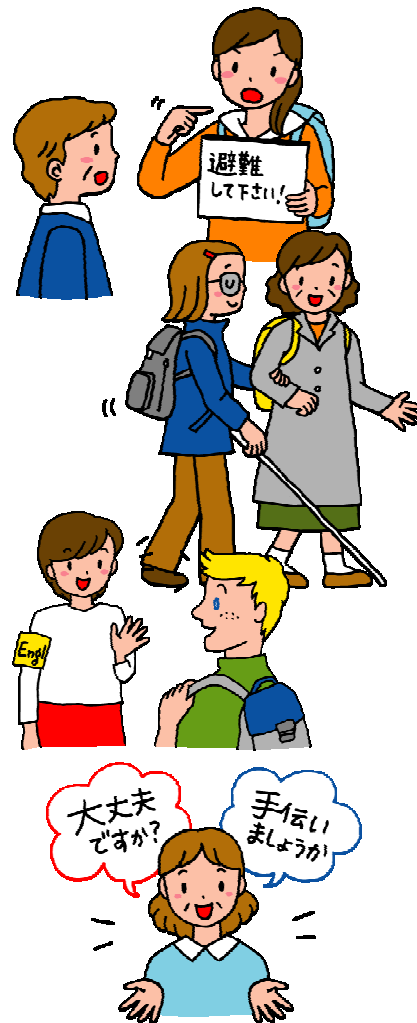
など

STEP 2 支援について学ぶ

支援方法を考えていくには、支援を必要とする人の状態や配慮の仕方など、相手を知ることが大切です。まずは専門家やアドバイザーなどを呼び、勉強会を行いましょう。

STEP 3 支援方法を考える

勉強会を基に、自主防災組織として“どのような支援を行うことができるか”適切な支援方法を考えます。また、福祉避難所や医療機関など、障害者を引き受けることのできる施設がある場合、施設の管理者とも話し合いを行い、災害時の支援体制を考えておきましょう。



活動メモ

- ① 「住民台帳」などを作成し、地域にどのような人が住んでいるかを把握しましょう。
- ② 支援が必要な被災者を積極的にサポートできるよう、日頃から勉強しておきましょう。
- ③ 災害時には、障害者をいつもサポートしている人が一緒にいるとは限りません。どのような状況でも適切な支援ができるよう、障害の程度や傷害の内容などを地域で把握しておくことが大切です。
- ④ 支援活動をスムーズにするためには、支援者だけでなく、支援される側も「支援が必要である」ことを理解しておく必要があります。
- ⑤ 地域で決めた支援方法を防災訓練などで実践してみることも大切です。課題点や改善点を抽出し、よりよい支援を目指しましょう。

考え方のポイント

- 支援にあたっては、専門的な知識を必要とする場合があります。勉強会を行うだけでなく、地域の自治体や福祉団体などと協力できるようにしておきましょう。
- 支援の方法に正解はありません。話し合いを重ね、支援する人・される人の両方に無理のない方法を考えましょう。

防災訓練を実施しましょう

自主防災組織が主体となった防災訓練の実施

実施に向けて	防災訓練は自主防災活動の“核”となるものです。自主防災組織の活動状況や地域の実情に合わせてながら訓練内容を企画し、無理のない訓練を実施しましょう。 防災訓練は継続して実施することが重要です。訓練の実施記録をまとめ、課題や改善点を抽出し、次回の訓練に活かしていくことも大切です。
対象者	●自主防災組織の役員 ●地域住民
準備するもの	※“活動のためのツール”の「防災訓練を行う」を参考にしてください
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

STEP 1 災害時の活動項目を確認します

“災害時の活動体制チェックリスト”を基に、「できていること、いないこと」を見直し、訓練が必要な項目を洗い出します。

※チェックリストは“活動のためのツール”に掲載しています



STEP 2 訓練内容を企画します

実施項目、災害想定、日程などを決め、防災訓練のシナリオを作成します。

STEP 3 実施に向けた調整を行います

地域住民への実施案内、会場確認、関係機関との役割分担など、実施に向けた調整を行います。



STEP 4 防災訓練を実施します

シナリオに基づき、防災訓練を実施します。ケガや事故のないように注意しましょう。問題点などがあつた場合は、その都度メモを取り、次の訓練へ反映できるようにします。

防災訓練実施のポイント

- 防災訓練の実施による「課題」や「改善点」の抽出も、訓練の大きな目的です。
- 訓練は、たくさんの方が参加し防災に興味を持ってもらうことが大切です。まずは“地域住民が参加しやすいもの”や“楽しめるもの”を企画してみましょう。
- 防災訓練の企画や実施に向けた調整内容、当日の役割分担などは、記録し残しておきましょう。
- 活動の記録が“地域版の防災マニュアル”として役立ちます。

防災訓練の実施項目

自主防災組織が主体となる訓練

自主防災組織が主体となり、町内会や班単位、地域全体で実施する訓練です。何度も繰り返し行う事で、知識・技術を習得できるだけでなく、活動を習慣化することにより災害時の迅速な対応につながります。

実施項目	難易度
避難訓練（避難経路の確認・避難誘導・避難者の確認）	★☆☆
通報訓練	★☆☆
防災備品の使い方講習	★☆☆
初期消火訓練（バケツリレー）	★☆☆
負傷者搬送訓練	★★☆
情報伝達訓練（口頭・電話連絡、避難勧告）	★★☆
炊出し訓練	★★☆
災害対策本部設置訓練	★★☆
避難所開設訓練（建物安全確認、災害対策本部設置、応急処置・女性専用部屋の設置など）	★★☆
避難所運営訓練（避難者把握、非常食配布、救援物資の配布など）	★★★
支援が必要な住民の避難支援訓練	★★★

専門機関の協力が必要な訓練

専門的な知識や特殊な機材を用いる訓練です。関係機関に協力を依頼し実施しましょう。機材などの提供は予約順となる場合があります。なるべく早めに相談するようにしましょう。

実施項目	協力依頼機関	難易度
情報連絡訓練	自治体	★☆☆
防災倉庫の備蓄品展示	自治体・倉庫の管理者	★☆☆
はしご車、消防車など特殊車両の展示	消防署	★☆☆
濃煙体験訓練	消防署	★☆☆
初期消火訓練（水消火器を使用）	消防署	★☆☆
実験装置を利用した災害疑似体験（起震車など）	消防署	★☆☆
応急・救護訓練（応急手当、AED講習）	消防署・医療機関	★☆☆
救出訓練	消防署	★★☆
救援ボランティア対応訓練	社会福祉協議会	★★☆
避難行動要支援者の避難訓練	社会福祉協議会	★★★

防災訓練の実施例

実施地域	三原市本町地区 本町連合町内会自主防災委員会		
実施日	平成24年11月25日		
参加者	本町地区住民 334名		
協力	●地元小学校 ●地元企業	●消防団 ●市役所	●消防署 ●防災士会 ●警察署 ●民生委員・児童委員 ●ひろしま防災リーダー
想定災害	南海トラフを震源とする大地震（マグニチュード9.0）が発生。三原市においても震度6強の揺れが観測され、揺れに伴う家屋倒壊や火災発生を想定した。		

●訓練実施までの流れ

STEP 1 防災訓練の企画

グループワーク形式で防災訓練企画会議を実施し、防災訓練の目的、災害による被害想定、訓練の実施項目などを検討しました。



STEP 2 実施に向けた調整会議（全3回）

一時避難所の決定、準備品と調達者、訓練運営の時間割などについて話し合いを重ね、会議内容を「防災訓練実施要領」としてまとめました。

■会議に参加した団体・機関

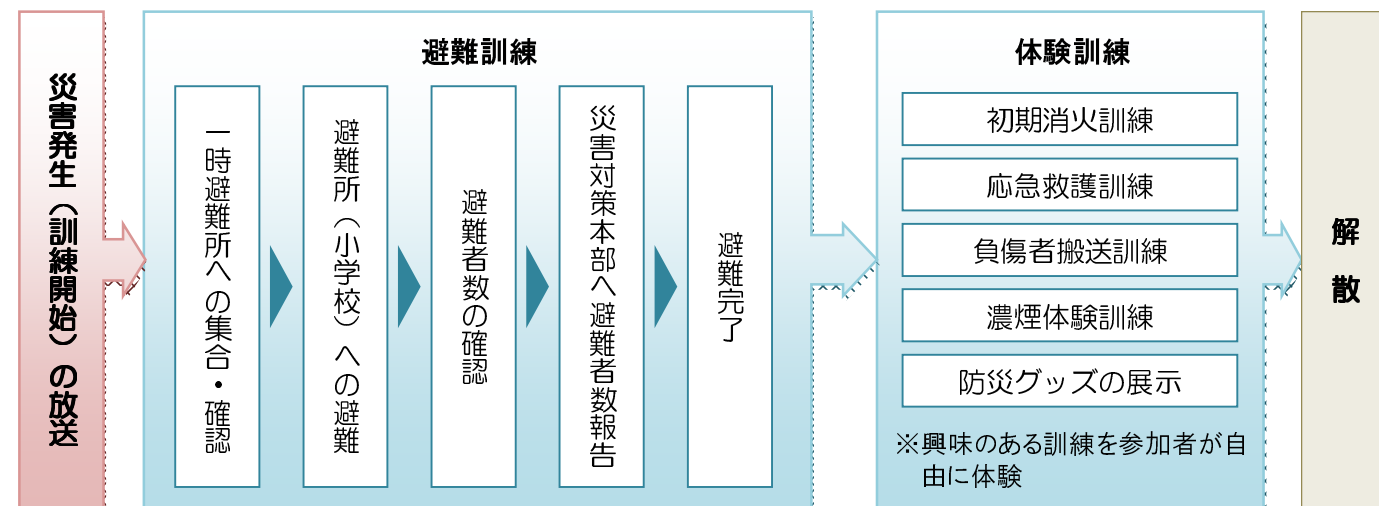
- 民生委員・児童委員
- 市役所
- 地元消防団
- 消防署

STEP 3 防災訓練の実施

「防災訓練実施要領」を基に訓練を実施し、活動の記録をまとめました。



●訓練の実施項目



●実施状況写真



▲一時避難所への集合



▲避難訓練（警察による交通整理）



▲支援が必要な住民の避難訓練



▲小学校への避難完了



▲濃煙体験訓練（消防署指導）



▲初期消火訓練（消防署指導）



▲応急救護訓練（消防団指導）



▲防災グッズの展示（防災士）



▲地元企業からの機材提供

参加者の感想

- ・近所の方と避難や災害時の行動について話し合う機会を持つことができた。
- ・地区の町内会が一齐に訓練を行うことで防災意識が向上し、訓練の大切さをみんなで理解することができた。



活動メモ

【活動で困ること】

- ① 訓練の想定災害が分からない。
- ② 訓練の日程が決まらない。
- ③ 参加者が集まらない。
- ④ 避難訓練で全員の避難が完了するまで待ち時間ができてしまった。
- ⑤ 訓練がマンネリ化してきた。

【改善案】

- ① 広島県や自治体で公表されている災害被害想定を参考に、地域で関心の高いものにしてみましょう。
- ② 地域行事と重複しないよう住民団体などと調整し、参加者が集まりやすい日を設定しましょう。
- ③ チラシ配布による事前周知も有効ですが、町内会・自治会で参加者数を割り当てることも効果的です。
- ④ 待ち時間中だるみしてしまわないよう、ちょっとしたミニ講座や防災クイズなど、参加者の興味を引く内容を準備しておきましょう。
- ⑤ アンケート結果などから改善点を見つけ、次年度の訓練に活かしていきましょう。

アンケート調査を行う

調査に向けて	目的に合わせて実施することで、自主防災活動に対する課題や改善策など、客観的かつ、より多くの意見を把握することができます。 集計したアンケート結果を、自主防災活動に役立てていきましょう。
準備するもの	●アンケート調査票 ※“活動のためのツール”の「アンケート調査を行う」を参考にしてください。
対象者	●地域住民
調査のタイミング	●講座・勉強会・講演会時：実施評価や参加者の防災への関心度など ●防災訓練時：訓練評価や次年度の訓練内容など

STEP 1 アンケート調査の目的を決め、調査票を作成します

目的、調査日、配布方法、回収方法を決めます。
“活動のためのツール”に掲載している設問集を参考に、目的にあった調査票を作成します。



STEP 2 アンケート調査を実施します

調査票を配布し、対象者に記入してもらいます。



STEP 3 集計・分析を行います

回収した調査票を集計・分析し、活動の課題や改善点、回答者の意見などを今後の活動に反映します。

アンケート実施のポイント

- 回答者の負担にならないよう、設問数に注意しましょう。
- 回答者の個人情報を記入するような設問は避けるべきですが、アンケートの目的によっては性別、年齢、居住エリアなどが必要となります。“目的以外のことに使用しない”という一文を併記するなど、十分に配慮しましょう。
- 氏名、連絡先などは、“任意の記名式”とすることで、今後自主防災活動に参加してもらえる人材の発掘へとつながります。

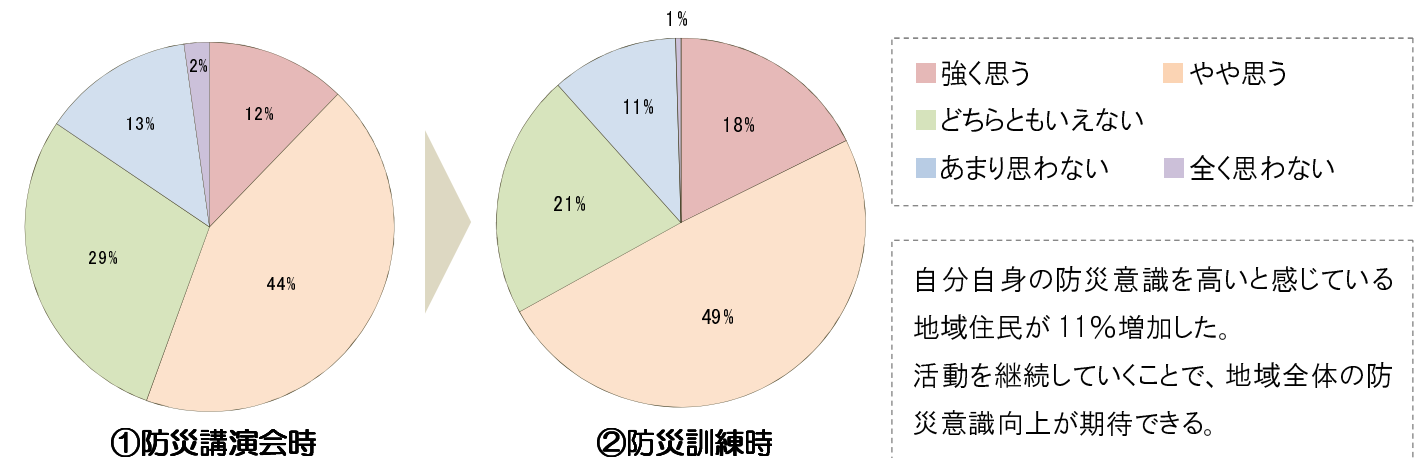
アンケート調査例

実施地域	広島市佐伯区楽々園 楽々園学区自主防災会連絡協議会
配布時期	① 防災講演会/平成 25 年 6 月 26 日：参加者 96 名（回収数 92 枚） ② 防災訓練/平成 25 年 11 月 17 日：参加者 350 名（回収数 216 枚）
実施概要	年間を通じた活動の中で、防災講演会実施時と防災訓練実施時に、防災意識の把握を行うためアンケートを実施した。



●アンケート調査からみえる参加者の意識変化

[質問：あなたは、あなた自身の防災意識が高いと思いますか？]



活動メモ

アンケート結果はどんなことに役立つの？

- アンケートに記入された意見を活動に反映していくことで、より地域住民が興味を持ちやすい活動の実施へつながります。まずは、意見の多いものから取り組んでみましょう。
 - 活動ごとに作成するアンケート調査票に同じ設問を記載しておくことで、年間を通して活動に参加した地域住民の意識変化をみることもできます。
- ※アンケート結果を周知することも大切です。